



専門職員設置は

答 適材適所に配置



6月の出荷を待つタマネギ（長者）

問

橋本眞一

農林業専門職員の設置は度々議会でも質問があった。町内でも盛んに言われている無農薬、有機野菜作りを指導できる専門職員を設置できないか。

答

町長

2月に農林業の担当者でプロジェクトチームを設置し、最初の検討会を開催した。間伐や環境林伐採事業の充実、町内産野菜の活用、農林業の活性化のため、職員の能力を活かし適材適所に配置し、信頼される行政を行う。

防災無線

不安

問

橋本

防災仁淀川町放送は聞き取りにくい所があるが、設置後の対応はどのようなにか。
放送の内容がわからなければ不安もある。放送時間帯を工夫するか、アンケート調査などできないか。

答

町長

1年間は電波障害などを調査した。区長会で意見も聞いており、聞き取りにくい所はスピーカーの調整や個別受信機を設置し対応する。

答

個別受信機で



これで安心です（防災無線個別受信機）



成果は

答 1640tのCO₂削減



燃料はペレット（ゆの森ボイラー）

問

山口芳正

実験施設個々の成果と反省点、特にトマトハウスでは、機械の故障により温度管理ができず、多額の損失が出たと聞くと、損失負担はどのような処理するのか。また、今後の事業方針はどう考えているか。

答

町長

19年8月から22年1月までに使用したペレットは、ゆの森47t、佐川町

民プール347t、湖水園239t、トマトハウス184tで、重油に換算すると合計で627klになる。1kl70円とすると4389万円の節約、原油換算では1640tのCO₂削減の成果があった。

トマトの被害は、原因を調査し、損失補償なども早急に進めている。事業化には採算性の問題もあるが、地球温暖化や環境問題などを考え、林業振興につながるよう、1～2年実証事業を続け、事業化のめどをつけたい。

地場産業

高齢者の生きがい

答

福祉部門で検討

問

山口

114世帯、1千万円を超える農産物の販売もされている。

高齢者の福祉部分の活動も大きく重要と考えている。元気高齢者の活動の支援に該当する事業を県とも相談し、方法を見通したい。

池川地区にはフードプランもあり地場産品の販売にも取り組んでいる。

問

山口

清流市の活動もあり連携も考えたい。

フードプランと同じような支援はできないか。

答

町長

一事業者の経営カバいは行政はできない。

答

町長

民間経営への直接支援は困難である。20年度実績で高齢者の賃金も40万円余り支払い、延べ2067人の働き場になっている。また、地場産品も



高齢者生産活動センター（池川土居）

バス事業 統一

答

現行

問
山口

バス事業を統一し、吾北分校通学の確保と、池川下町商店街通行に路線の見直しはできないか。

答
町長

コミュニティバスは福祉的な意味合いが強く現行でいく。高校生の通学は黒岩観光との協議が必要であり、いの町とも協議したい。
安部病院まわりの要望が多く現在のコースになっている。



町民バス

基金

運用は適正か

答 目的内と理解



たのしくゲーム（せいらん荘）

問
山口

介護公社から社会福祉協議会に引き継がれた基金は、運用益を利用して介護事業の安定を図る目的の基金であり、事業者の変更後も当初目的どおりの運用か。

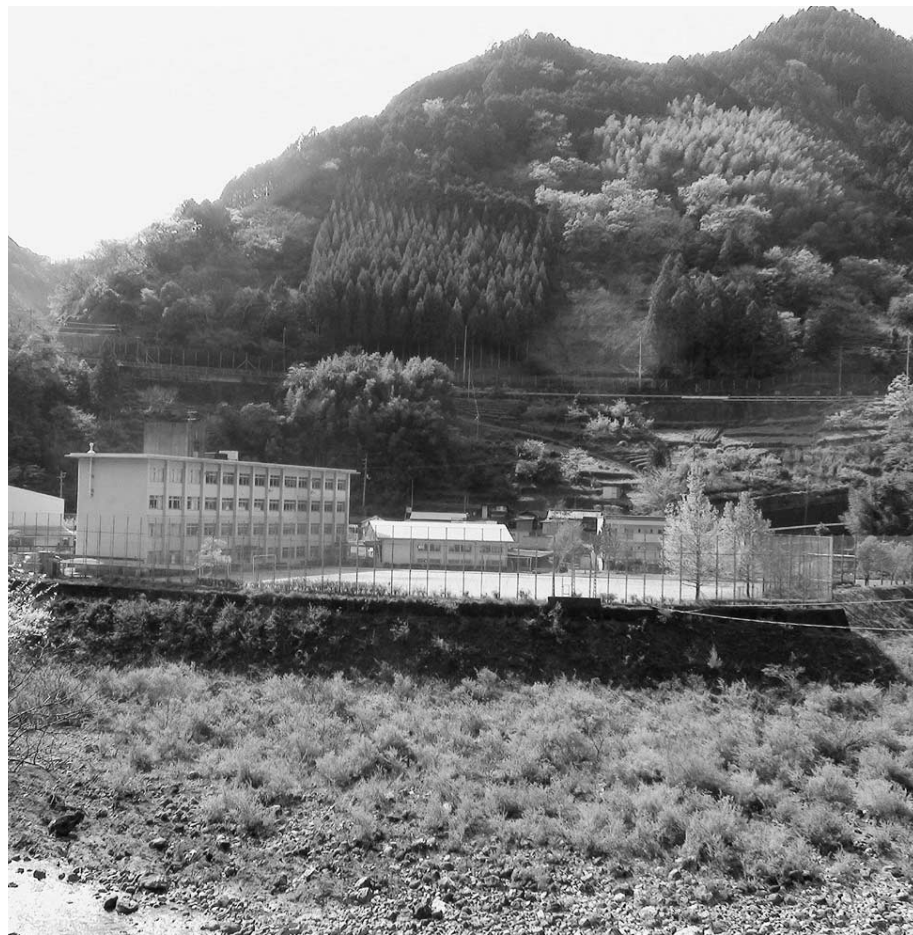
答
保健福祉課長

基金は、平成5年に県の認可事業で、ふるさと定住促進モデル事業に採択され、当時の三ヶ町村と県補助金で積み立てたもの。介護事業に対応すれば、目的外使用に当たらないと理解している。



閉校式に支援を

答 130万円



来年3月閉校となる仁淀高校（国道439号より）

問

西森久雄

仁淀高校は昭和22年に佐川高校仁淀分校として開設され昭和31年4月に独立して60年余り、町民に応援をいただいた。閉校式典は校友会をはじめ、多くの人が準備にかかわっているが、町の

支援は。

答

町長

問

西森（久）

県からの支援は。

町もできる限り支援していく意味で、130万円の予算を計上している。

答

教育長

県へ話したが、他の学校との兼ね合いもあり、通常の予算の中で対応との返事。

問

西森常晴

（株）ソニアの破たんの原因は、前専務取締役にあるが、16年間赤字を垂れ流すことを放置してきた取締役（各首長）も

（株）ソニア再生は急務

答 議会と一緒に



答

町長

責任を免れることはできないが。

破たんの原因は、前専務取締役の危機感、責任感の欠如、取締役の指導力、経営力不足にあった。各首長は取締役として経営の健全化に向けて真剣に取り組んで来て、背任行為があったわけではない。

前専務取締役は解任され、他の取締役も辞任の意思を示す中で、これ以上の責任は追及できない。

問

西森（常）

今後、町の専門家の意見を取り入れ、早期に再生を図るべきと考えるが。

答

町長

議会と一緒にあって、実務型の取締役をつくり、より良い方向を見出していきたい。

隠岐ノ島

間伐で町の活性化を

答

全力で取り組む

問

西 森 (常)

「高知新聞」の記事に、木材利用促進法案を閣議決定とあった。

公共施設の木材利用を現在の15%から30%に義務化するもの。

また、新政府は、木材自給率を現在の24%から10年間でドイツ並みの50%に引き上げる計画だ。町の取り組みは。

答

産業建設課長

21年度間伐面積は350haの見込みだ。

22年度は550haを計画、作業員は約50人だが、増員を目指す。

森の工場は22年度に6工場になる予定。

運営している事業体は4社。雇用の場づくりの

重要政策と考えており、力を入れていく。

問

西 森 (常)

島根県隠岐ノ島「海士町」が今輝いている。

2002年に新しい町長が誕生し、建設業者が牛を飼い、隠岐牛を松阪牛並みの値段で販売できる、ブランド牛に。

3年間に、300人がIターン。島の地場産品を掘り出しているという。

町長が語る「役所はこれまで庁舎の内側に居て、あれこれ言うだけだった。民間でできることは、民間にというのは楽だが、経営規模の小さな島では民の仕事を官がやるぐらいの意気込みを持たなければならぬ。

かつて私は公共事業を国から取って来なければ

とそればかり考えていた。しかし今、私の頭の中に公共工事はありません。国にお願いする事だけが私の仕事ではありません。

離れた島は橋が架からない限り離島であり続ける。そのハンディを前に、行政が弱音を吐いてはいけません。

本町の発展は、林業の活性化しかない。本気で資金を投入して、事業を起こせないか。

答

産業建設課長

林業プロジェクトチームを立ち上げ、間伐に力を入れていく。



間伐林 すっきりこれからのびのび (黒滝)